

第7回ウイングスタジアム指導者研修会

1. コミュニケーションスキルについて

Lecture

今井 正裕 財団法人大阪府青少年活動財団 主幹 (社団法人日本キャンプ協会 指導者養成員)

甲斐 知彦 関西学院大学 教授 (社団法人日本キャンプ協会 調査研究委員)

松島 由佳里 財団法人大阪府青少年活動財団 NOS インストラクタ

1) コミュニケーション

- コミュニケーションとは
伝えること ... ではなく、伝え合うこと
- コミュニケーション能力とは
伝え合う関係を持続させる心・力
- コミュニケーションの4つ
社会状況の理解
人の理解
対象者、対象者の背景の人物
時代の要請の理解
今の時代に求められているもの (Ex: どのような指導者が求められているのか)
スキルの理解
アウトプットの仕方(展開方法)、技術の理解、企画計画、評価の方法

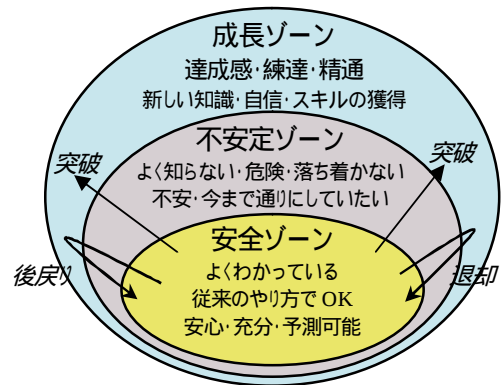
2) 野外教育(キャンプ)

- キャンプとは
生活体験を行う場である
冒険プログラム、環境プログラム、ハートプログラム、
日常生活や学習に学びを適応し継続する
- 冒険教育
競技スポーツが注目
1970年:筑波大学サッカー部 が取り組み、成果と発展
2004年:アテネオリンピック 柔道チーム
Jリーグの取り組み
ヴィッセル神戸、サンフレッチェ広島、モンテリオ山形、フロンターレ川崎、セレッソ大阪、京都パープルサンガ、ジェフ市原、コンサドーレ札幌、アテネ五輪日本代表、日本サッカー協会 S級ライセンスカリキュラム、Jアカデミープログラム
ヴィッセル神戸 Jr、ヴィッセル神戸 Jr-youth、ガンバ大阪 Jr、サンフレッチェ広島 Jr

- 環境教育
野生生物を題材、森林を題材、感覚的な自然認識

3) 冒険教育とは

- 冒険とは
命を落とすようなことに挑戦することが冒険ではない。
“自分のポジションから一歩前に踏み出す
勇気”



4) 効果的な学び

- エントロピーの高い状態
選択肢が多い、意見や考えが複数ある、色々なレベルが同等で複数に分かれている、
効果的な学びが得られる状況
- エントロピーの低い状態
選択肢が限られ狭い状況、特定の意見や考えが圧倒している、それしかない、価値観が限定
効果的に学べる環境でない

5) ハートプログラム

- Human Relation Training Program
人をつなぐ鍛錬計画・・・頭文字で H・R・T プログラム
- ハートプログラムとは
一つ一つのゲームを通して、お互いを尊重すること、グループ内でコミュニケーション・自主性・
積極性・創造性を身に付けることを学んでいく「心の教育」を目的としたプログラム。
野外教育・人間関係学などのメッカである、米国の体験学習プログラムなどの技法をアレンジし
て組み立てている。
緊張をほぐす簡単なゲームから、自己への挑戦、グループで力を合わせないと達成不可能な
種目まで、様々なプログラムを組むことが可能。
- ハートプログラムでの約束
話をよく聞いてルールを守ろう
よく聞いてしっかり理解する
積極的に取り組もう
取り組む姿勢が重要
他の人を傷つけない
肉体的、精神的・・・言葉の暴力も禁止
各団体の目標
目的・目標を失わない

6) 体験学習サイクル

- 体験 → 振り返り → 一般化 → 応用 → サイクル化され、現実の世界へ

- Ex)あついお茶で下をやけどした → お茶のせいではなく、あついからやけどした → あついコーヒーでもやけどする → あついものには気をつける

7) フィストキャンプとハートプログラム

- ACE(Action Socialization Experience : 行動社会体験)
 - アクティビティ主体
 - 限られた時間
 - 日常的な環境
- 冒険キャンプ
 - キャンプ全体としてアクティビティを考える
 - 2泊3日という長い時間
 - サッカーから離れた非日常的な環境



テーマを与えると、それぞれの課題は意欲的に克服できる(協力・協調して)
しかし、その間に当てはめられた内容については、達成できない

8) タイプ

- レクリエーション型
 - Re-Creation (レ:再び、クリエーション:創造する)
 - 楽しく、溶け合い、伝え合う
- 自己挑戦型
 - 自分自身が主体に挑戦してクリアする
- 課題達成型
 - ひとつのグループが一人では解決できない精神・身体的課題に対して、メンバーそれぞれの諸能力を出し合って協力して解決する

タイプ	指導者	スタイル	ポイント	重要	スタート	成立要因	主体	相手	同伴
レクリエーション	リーダー	リードする	盛り上げる	しゃべる	ルール説明	リーダーの力量	リーダー	リーダー・他人・自分	指導者も参加
課題達成	ファシリテータ	促す	待つ	観察する	ゴール説明	メンバーの意欲	メンバー	プラス 自分	指導者は不参加

9) キャンプでどんな効果があるのか

- Off the pitch score の変化 (http://misaki.iinaa.net/instructive/off_the_pitch_score.pdf)
- キャンプや活動の感想が向上
- 効果は1ヵ月後も続いているが、数ヶ月で低下していく → 繰り返しが必要

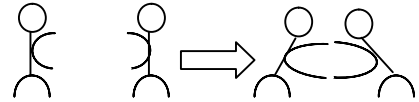
10) ゲームの構成

- 笑い
- 触れ合い
- 競い合い

11) イニシアチブゲーム

➤ 支えあい

足を肩幅に開き双方向かい合い、言葉のコミュニケーション無しに同時に倒れこみ、手で突っ張り支えあう
徐々に距離を開いていく



➤ 順列

声以外のコミュニケーションで順に円形に並ぶ
Ex) 姓の五十音順、年齢順、身長順、体重順、など

➤ 数字回し

1 から順番に数を数えて回していく
3 の公倍数は、声を出さずに手拍子(手を1度たたく)

➤ ボール回し

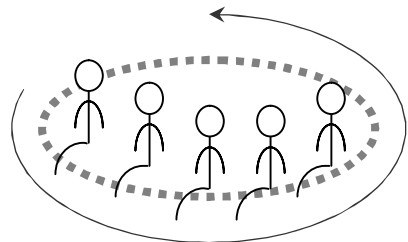
全員にボールを回していく(必ず全員が触れる)
最初の人から最後の人まで1周する時間を測定する
ラップ時間を短縮して更新していく

➤ 手の伝言

2 チームで向かい合う。
チームの隣同士は手をつなぎ、下を向く(目を閉じる)
先頭だけは目を開けておき、指導者からの合図で、左手を握っていく
隣の人は右手を握られたら左手で次の人の右手を握る
最後の方は、置いてあるボールを奪いあう

➤ ヒューマンチェア

全員で円形をつくる
後ろの人の膝に順番に座っていく



2. 王国兵庫の復権 育成年代に求められるもの

Lecture

黒田 和生 ヴィッセル神戸 育成部長

1) SOCCER の捉え方

- 何故? 何が? どこが? 何で教える? 何を教える?
人を育てる → 自分を育てる
- 軸がぶれると質が上がらない … 「志」は大丈夫?
人間力の向上 → 質の向上
↓
軸がぶれないように(ポリシーは人によって異なる)
- SOCCER の捉え方
サッカーは一人ではできない

2) よいサッカーは良い選手がする

- よいサッカーとは?
ゴールから逆算して考える
- よい選手とは?
謙虚な自立人間
矛盾がいっぱい → 個と組織、攻めと守り
アイデアを自分から出す
少し上を目指す
自信は練習により身に付ける
- 習慣作り(よい習慣を意識させる)
よいものは真似る、よくないものは止める
挨拶、スリッパを揃える、カバンをきちんと扱う、読書する

3) すべての責任は指導者にある

- 「覚悟」は「決意」の何十倍も重い → 使命感
- 選手の未来に携わっている
発育発達の段階を踏まえて、当然、神経系、技術、個人戦術、グループ戦術、チーム戦術
- 実技 + 理論(知識) + 教え方(話し方、伝達技術) + 度胸 + 謙虚 + ??
- 素材を見抜く力・眼 言い訳はない

4) 伸びる選手(人間)

- 三条件
素直、勉強好き、プラス思考
聞く力 - 考える力 - 読書、感性、脳トレーニング
- 身体能力の高さ
- 精神力の強さ - 辛抱、忍耐、向上心

5) 指導者が覚悟を決めて、かつ、希望と夢を抱いて歩むしかない

- 普及とは数を増やせばよいというものではない。
- 如何にして三度の飯よりサッカーが好きな選手を増やすか。